

第IV部

防衛生産・技術基盤の強化

第1章

防衛生産・技術基盤をめぐる状況

第2章

防衛生産・技術基盤の維持・
強化に向けた基本的な考え方

第3章

防衛装備・技術協力と
防衛装備移転の推進

第4章

装備品の最適化の取組

第1章

防衛生産・技術基盤を めぐる状況

近年、わが国を取り巻く安全保障環境は厳しさと複雑さを増しており、防衛省・自衛隊が直面する課題もまた、当初の想定をはるかに上回るスピードで変化している。

例えば、ロシアのウクライナ侵略の教訓を踏まえ、わが国としての持続的な対応能力の確保・維持に取り組むとともに、防衛産業におけるサプライチェーンリスクにしっかりと対応する必要がある。また、各国が防衛分野を含む最先端科学技術に積極的に投資し、競争が激化するとともに、新しい戦い方が顕在化し、日々それが更新されるなか、民生先端技術を積極的に取り込み、スピード感を持って、防衛技術基盤の育成・強化を進める必要

がある。さらに、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境にあって、OCEANの精神のもとで同盟国や同志国などの連携強化がますます重要になるなか、その有効な手段としての防衛装備移転の推進にも積極的に取り組む必要がある。

現在の安全保障環境は、わが国の防衛生産・技術基盤が、いわば防衛力そのものであるという事実を浮き彫りにした。こうしたことから、防衛省・自衛隊は、防衛生産・技術基盤を強化していくため、様々な課題に取り組んでいる。

第1節

安全保障を支える防衛生産・技術基盤

1

「新しい戦い方」と防衛生産・技術基盤

近年、科学技術の急速な進展が、安全保障のあり方に根本的な変化をもたらしている。各国は、自国の技術的優位性を確保するために研究開発を加速しており、とりわけ、将来の戦闘様相を一変させうる、いわゆるゲーム・チェンジャーと呼ばれる先端技術の獲得に注力している。

AI、量子技術、新たな形でのエネルギーの利用といった

Artificial Intelligence

た新技術は、装備品等¹へ適用されて、戦闘様相を従来の陸・海・空領域から、宇宙・サイバー・電磁波領域や人の認知領域にまで広げつつある。また、AIやSNSなどの情報関連技術や情報インフラの急速な進展は、Social Networking Service軍事的手段と非軍事的手段を組み合わせたハイブリッド戦を発生させ、偽情報の拡散を通じた情報戦を拡大させるリスクなども劇的に高めている。

2

防衛生産・技術基盤をめぐる各国の動向

諸外国は自国の防衛生産・技術基盤を維持・強化するため、各種の取組を進めている。

米国は戦争省が政府負担研究費のうち約半分を占めているほか、企業や大学などの革新的な研究に対しても大規模な資金援助を行っており、民生先端技術の安全保障分野への活用にも取り組んでいる。イギリス、オーストラリア、NATOでも同様に、先進的な民生技術の取込みを目的として民間の革新的な研究開発に対して資金援助

を行っている。そして中国は、軍民融合を国家戦略として推進しており、新興領域（ネットワーク、データ、AI、生物、核など）の発展を国家安全の新たな領域と位置付けている。

さらに諸外国では、自国の防衛生産・技術基盤を国防に必要な要素ととらえ、国内企業参画支援や輸出の促進など、様々な取組を進めている。特に装備品の輸出は、防衛生産・技術基盤の強化のみならず、輸出先の相手国との関

1 自衛隊が使用する装備品、船舶、航空機および食糧その他の需品（これらの部品および構成品を含み、専ら自衛隊の用に供するものに限る）。